

中3国語 出題のねらいと対策

一 説明的文章読解 64.2%

ねらい：比較されている事柄や、具体例の内容を捉え、筆者の考えを理解する。

分析と対策：この文章は、外国人と日本人の、ものの考え方や生活習慣・価値観などの違いについて、町の地番の付け方などの例を挙げながら述べたものです。外国人の発想と日本人の発想について、筆者がそれぞれどのように捉えたのかを読み取ることが求められます。問2は、品詞の識別の問題です。活用できる語句かどうかを見極めます。問3は、文章全体の話題にも関わる、町の地番の付け方に関する問題です。問4は、具体的な指示内容をまとめる記述力が問われています。問5は、文章中の具体例を捉え、それらをもとに筆者が捉えたことを読み取る問題です。問6は、文脈に絡めて慣用句の正確な知識を見る問題です。問7は、文章中で外国人の発想と対照されている「日本の思想」の理解が問われています。

二 文学的文章読解 59.7%

ねらい：辞書編集部に引き抜かれた馬締の様子や、彼と周囲のやり取りの様子、辞書づくりに携わる人々の熱意などを読み取る。

分析と対策：馬締の歓迎会で、馬締の趣味の話から、彼が辞書づくりに向く人材だと改めて確信した荒木が、松本先生とともに、辞書づくりに懸ける熱い思いを馬締に語る場面を描いた文章です。長年辞書づくりに携わってきた荒木と松本先生が、馬締のどういうところに目をつけ、どういう思いを伝えよ

うとしているのかを読み取ることが求められます。問2は、心情の表現を捉える問題です。問3は、表現を通してその場の雰囲気を想像し捉える力を問います。問4は、松本先生が思った内容についてまとめて記述する問題です。松本先生と荒木が、馬締の言葉をどう辞書づくりに結び付けたのかを理解しましょう。問5は、馬締に語りかける荒木の思いと、伝えようとする内容が問われています。問6は、前後の文脈から動作の意図を読み取る問題です。問7は、荒木と松本先生の辞書に対する考えを記述する問題です。独特の比喻表現をおさえながらまとめましょう。

三 古典読解 36.3%

ねらい：漢詩の基礎知識や内容をおさえ、古文の内容との共通点を読み取る。

分析と対策：幕末から明治初期にかけて生きた政治家、木戸孝允の漢詩からの出題です。問1の漢詩の形式や、問3のような書き下し文・返り点の問題は、漢詩・漢文の基本なので、しっかりとおさえましょう。問2は、作者の主張をおさえ、漢詩の内容の理解を問う問題です。問4は古文との融合問題です。漢詩と古文の内容から、共通する主旨を捉える読解力と、それを適切にまとめる記述力が問われています。

四 作文 56.0%

ねらい：問われている事柄を、条件をおさえながら適切に作文する。

分析と対策：書く内容を整理し、わかりやすく筋道立った構成で書きましょう。見直しも行いましょう。

全体の平均点は 57.2点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。